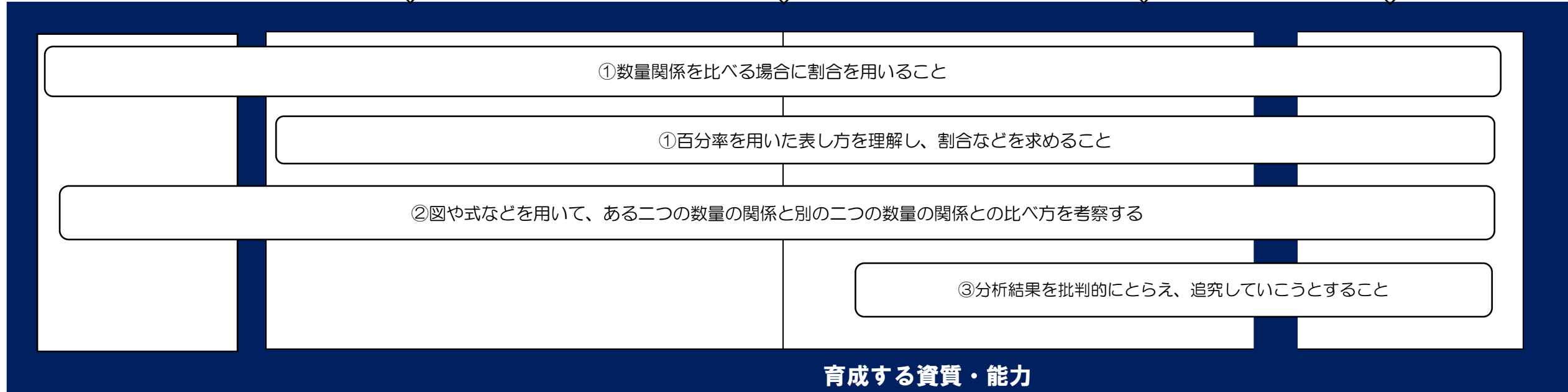


単元の主張

ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解するとともに、二つの数量の関係どうしの比べ方を考察し、日常生活に生かす力を伸ばしていく。また、割合の見方を資料の分析方法の一つとして活用していこうとする態度とともに、考察の方法や結果を批判的に振り返り、よりよく問題解決する態度を養っていく。

1 単元デザイン

① ②	③	④	⑤⑥⑦	⑧本時	⑨	⑩ ⑪
割合の意味	百分率の意味と表し方	歩合	百分率や割合の活用とよさ	多面的な資料分析	和差を含んだ割合	帯グラフや円グラフの読み方やかき方と特徴
2つのシュートの記録を比べる活動を通して、差では妥当性を欠くことに気づき、倍の見方を用いることで比べられることに気づく。	基準を1や100にして比べることを通して、1あたりや100あたりの割合で比べることのよさを考える。	「割」「分」「厘」が日常生活の中で用いられていることを知り、百分率との違いやそれぞれのよさを考えながら実際に求める。	比較量を基準量と割合から求めたり、基準量を比較量と割合から求めたりする活動を通して、比較量と基準量、割合の関係を理解する。また、複数の比較量から割合を求められることを理解する。	複数の比較量が含まれる資料を割合の見方を使って、多面的に分析する活動を通して、考察の方法や結果を批判的に振り返る態度を養う。	和や差を含んだ割合の場合について、増える金額、引かれる金額や割合に着目して解決の仕方を考え、説明することができる。	前時の太鼓の記録を帯グラフや円グラフに表す活動を通して、全体に対する部分の割合が視覚的にとらえやすいというよさに気づく。



2 単元で育成する資質・能力

① 生きて働く「知識・技能」 (ア) ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを理解すること。 (イ) 百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること。	② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」 (ア) 日常の事象における数量の關係に着目し、図や式などを用いて、ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係との比べ方を考察し、それを日常生活に生かすこと。	③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性」 ・資料を分析する際に、既に明らかになっている結果に対し、批判的にとらえ、さらに多面的に分析、追究していこうとする態度。
ある二つの数量の關係と別の二つの数量の關係において、基準にする大きさが異なる場合には、差を用いた比較では妥当性を欠くことや既習事項である倍の見方を用いて比較することで、数量の關係どうしを比べられることを極端な場合の検証などを通して、児童が実感を伴い理解ができるようにする。また、天気予報など日常生活で百分率が使われる場面を取り上げ、不確定な事象に関しても用いられるなどの特徴を理解できるようにする。	二つの数量どうしを比べるときに、数量の關係を図や式などを用いて表したり、図や式から数量の關係を読み取ったりする活動を通して、何を基準量、比較量にすればよいかを適切に判断できるようにする。また、何を基準量、比較量にするかを決定する際に、その根拠となる自分の目的や価値についても表現できるようにする。	複数の見方をするすることで、結果が異なってくる問題場面を用意し、検証していくことで、必ずしも答えは一つではないということを実感させる。そこから物事を批判的に分析しようとする態度を育成する。

3 本時について

本時目標	割合の見方を活用し、資料を多面的に分析し、批判的に振り返ることができる。
------	--------------------------------------

<p>本時の趣旨</p> <p>本時では、資料分析の方法として割合の見方を活用し、さらに結果や考察方法を批判的に振り返ることができる力を育成することをねらいとする。そのために、比較量が複数含まれる資料を提示し、どの数を比較量とするかで、求められる結論が異なる資料を用意する。</p> <p>まず、AとBの2つの遊園地のアンケート結果から「どちらの遊園地がまたお客さんが来てくれるか」を問う。最初に提示する比較量(◎)からBの遊園地の方がまた来てくれる人が多いという結論を共有する。次に、他の比較量(△)も提示し、先ほどとは異なる結論が出ることを共有する。さらに他の視点でも分析を進め、なぜそのように考えたのかを伝え合うことで、どちらの立場にも根拠があることに気づく。</p> <p>これらの活動から、様々な視点で資料を分析する大切さや結果は必ずしもひとつではないことに気づく。</p>	<p>① 2つの結論</p> <p>○割合の見方の必要性を感じる。</p> <p>まず、AとB二つの園で来園者を対象としたアンケート結果を提示する(◎のみ)。その結果から、「どちらの遊園地がまたお客さんが来てくれると思うか」を問う。差では判断できずに合計数をもとにした割合で比べなくてはならないことや、その結果B園が客が来てくれると言えることを確認する。</p> <p>○異なる見方の共有</p> <p>「行きたくない」という視点でも分析する必要があることを確認した上で、×の結果を提示する。その結果、先ほどとは異なりA園の方が客が来てくれるといえることを確認する。結論が出ることを共有する。それにより、相反する結論が求められることに気づく。</p>	<p>② 多面的な見方</p> <p>○「また来たい」という意味のとらえ方</p> <p>他にも、アンケート結果があることを確認し、また来たいとは「行きたい側(◎と○)」と「行きたくない側(△と×)」という両方の面からとらえることができることを共有する。</p> <p>○自力解決(多面的な見方)</p> <p>自分の考える見方から新たな数を比較量と捉え、割合を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈◎+○〉 ・〈△+×〉 <p>○考えの共有</p> <p>それぞれの考えを出し合い、新たな見方を確認する。</p>	<p>③ 見方のもとになる根拠</p> <p>○考えとその根拠を出し合う</p> <p>どちらの園の方が客がまた来てくれると思うかを再度問いかけ、各自の考えを出し合う中で、どちらの立場にも根拠があり、結論は一つではないことに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの視点で上回っているのだからA園。 ・絶対にまた来ると言う人は確実に来るのだからB園 ・〈◎と○〉や〈△と×〉では、割合の差がほとんどないのだから、〈◎〉で上回っているB園の方が客が来る。 <p>○まとめ</p> <p>「アンケート結果を見るときに大切なこと」を自分の言葉でまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正解がひとつではないこと。 ・色々な見方で見ていくこと。
---	--	---	--

本時で働かせる数学的な見方・考え方	結果や考察方法を批判的に振り返ることができる力
-------------------	-------------------------

